

婦人子片



第 二 號 第 八 卷

本 號 要 目

- 誤解する種痘 醫鼠博士 瀬川昌者
- 女學生墮落の遠因 棚橋絢子
- 婦人の病氣 某醫學士
- 育兒の經驗 光藤泰次郎
- 子供の遊戲の種類 小出末三
- 幼稚園に於ける所感 和田倉子
- 保姆とより最初の一週間 某 女
- 馬には乗つて見ろ 川口孫次郎
- 此頃の料理 石井泰次郎
- 婦人の剛德 鹽野生
- 俳句 鹽野奇零
- 短歌 眞宮起雲
- 柿と栗との話 なにがし

謹告

新年には本會又は幹事に宛て御丁寧なる年賀狀を寄せられたる方々頗る多し千萬感謝に堪えず一々御禮申上兼候に付略儀ながら誌上に御禮申上候頓首

フレーベル會

明治四十一年一月 幹事一同

投稿募集

●か伽話 本誌年々年分以上三ヶ年分
一種類

●一般記事

選擇の上本誌に載録せるものは内規により原稿料を呈す

但し右賞品は受賞者の希望に依りて會費と差引き若しくは自ら取らずして其指定する人に本會より直接送ることを得

一注意 お伽話及一般は記事一行廿二字詰にて半紙又は罫紙に書かれたし原稿は凡て返戻致しません此募集は期限を定めません毎月十日迄の分を其月に選評し後は翌月に回は何時迄も引續いて行く積りです。

宛名は本會へ直接御送り下さい。

開き封で應募原稿と標記すれば三十匁迄は郵税二錢で参ります。

質問規定

本會は讀者の種々なる質問に應じます。婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は通信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又ハ購讀手續

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金拾錢の割合で一ヶ年分をまとめて本會に直接御申込下されば直に登録して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい。

一冊郵税共金拾一錢 ●六冊前金郵税共六拾錢

●拾二冊同金壹圓貳拾錢

●郵券代用一割増

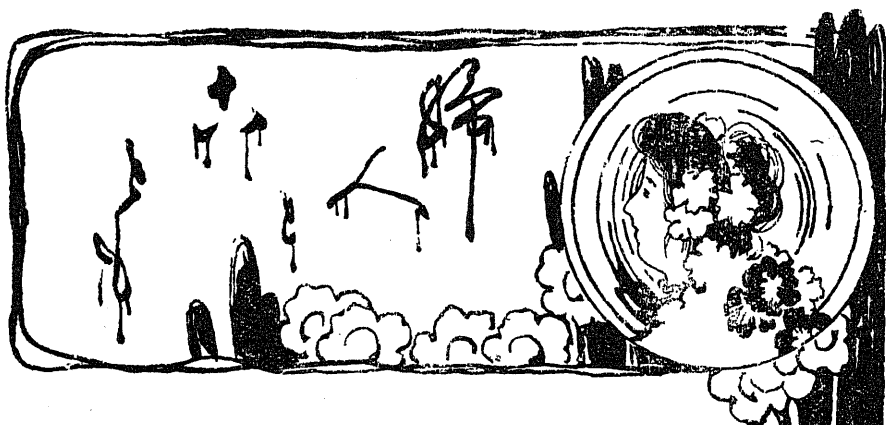
廣 告

本月八日(第二土曜日)午後一時半
より小石川竹早町東京女子師範
學校附屬幼稚園に於て本會第四
回常集會開催致し候間御繰合せ
御出席相成度候

追て當日は文學士吉田熊次氏及學習院教授石井國次氏の演說有
之筈に付知友御同伴なさる可く候

明治四十一年二月五日

フ
レ
ー
ベ
ル
會



第八卷第二號

香々

子供を悪くするものは誰か？

吾等は斷言する。子供をして最初に悪ならしめるものは小供自身ではなくて、他人殊に教育者自りである。子供は何も知らないで悪い意味なしにやることを傍から行つて、夫れに悪い動機を與へる様にして居る。夫は子供は全く無邪氣でないにしても惡意は以てはしない。然るに之を導くものは子供の知らない、自分では覺つて居ない動機を傍から教へる様にして居る。一方から云ふと又精神的に子供を殺す様な事をして居る。子供等は父母や教師から何か悪いことをしたと云ふので罰せられることがあるが、安んぞ知らん、其悪いことは前に父母や教師からして子供が學んだ所である。一体罰と云ふもの、殊に口で叱り付ける罰は子供が全く知らないで居る處へ以つて行つて、罪過を教へることになる場合が甚だ多い。だから人と云ふものは一体神に向つてよりは子供に向つて罪を犯すことの多いものである。

(フレーベル)



誤解せる種痘

醫學博士 瀨川 昌 著

神戸及び神奈川縣に於ける天然痘の流行は勢ひ益々猖獗であるが、今日の如く交通頻繁では如何なる機會に此病毒が傳染するか知れない、元來天然痘其物は最も恐るべき傳染病なれど之は充分豫防策の行はれるもので即ち種痘さへ厲行すれば少しも驚くべき事はない、併し天然痘流行期に於ける種痘に關しては種々疑問の起るもの故左に瀨川醫學博士の説明を記し參考に供するのである。

▲極端なる小兒と大人の種痘 小兒の種痘には親々が非常に氣を揉んで春秋二季に之を厲行しやうと云ふ意氣組みのお方さへ見えますが、之に反して大人になると種痘は一向無頓着で、分けても老人などには天然痘は感染せぬかの様に思つて居る

二

ものさへあるやうです、小兒と大人との種痘に於ける感想は全然兩極端に傾いて居るが之を醫師に言はせたら、何うか双方の中和を得るやうにしたいのです。

▲免疫性の小兒 小兒でも大人でも一回種痘して夫れが種痘しましたら先づ四五年間は免疫になりますから天然痘の病毒に感染する憂ひも無く安心して居られます併し種痘を施しても全く種かない小兒もあるのでは體質が既に免疫性になつて居るからです、尤も斯ういふ體質の小兒は少數なものです、併し生後第一回目の種痘で斯くの如く一顧も不感ぬものでも程經て更に再び種痘すると善感ますやうな場合もある、夫れ故初めて種痘した小兒は假令不感ぬからとて之は免疫性の體質だと一概に認める事は出来ませんから分けても天然痘流行の際などには再び種痘する方が安全であります

▲親々の誤解せし種痘 處が春季に種痘した小兒で善感たのにも係らず又秋季になつて種痘して貰ひたいとお連れになる親達がありますから『あなたのお兒さんは春に種痘して良くついたでは御座

ませんか、四五年は別に御心配はありませんよ」と申上ると親達は不審な面色をして『全く差支へはないものでせうか』と何となく安からぬやうに見えます、併し一度種痘して善感ば即ち是れ免疫の證據で重ねて種ゑる必要な事と心得て置かれたい。

▲一度天然痘に罹りし人 本所區業平町で發生した天然痘患者も之れは種痘を施さない小兒であつたと云ふ事だが目下東京にも流行の兆ある矢先さ必ず種痘を勵行するやうにされたい、初一度天然痘を患んだものは最早全く免疫になり假令天然痘が流行しても再び冒される患ひなしと安心が出来るかと思ふに之れも亦全然安心する譯にもならぬ、随分天然痘に罹つた患者であり乍ら再び之れに冒されたものもない譯でなく稍もすると事實になり易い事を記憶されたいのです、故に此際尤も安全を圖るには一回天然痘に罹つたものでも矢張り種痘をされる事をお勧めするのです。

▲妊婦の種痘 懷妊して居る御婦人などは種痘して可からうか或は種痘したゝめ胎兒に何か故障で

も出来てお産の緒を解くとき苦惱でもありはせぬかと種々に氣を揉むものもあるけれど之れは醫説として妊婦は種痘を施して差支へ無いばかりでなく、或る一説には胎兒までも免疫になると云ふ程ですから、決して迂論に思はず此際進んで種痘をするやうに御注意申すのです。

▲小兒の種痘 一体種痘をするに生後間もなき所謂初生兒であつたらばと懸念する親々もあるやうですが尤も熟練なる醫師に能く／＼小兒の身軀健康の點を診断して貰ひ、差支へなくば種痘する方がよいのです、併し流行時でなければ成可く生後百日位からがよいけれど流行時期には開な事を云て居れない。

▲種痘前後の注意 種痘をする時は前日入浴して身体を清潔にし襦衣も清潔な洗ひ清めたるものを着けるやうにする事を忘れてはならぬ、近來の種痘法は昔の如く突いて種ゑるのでなく切種するのですから善感ぬと云ふやうな事は殆んどないのです、爾うして種痘後五六日目から少しく發熱しンコへ水痘が出来て夫れが大きくなると膿疱に變じ

ます、十三四日位から膿疱が乾いて来て黒くなつて結痂します。痂の落ちるのは大抵廿日過ぎて跡へ白い癬痕を残すが今も申す通り近來は切種です。から瘡も大さし随つて痒味も多しする故小兒などは膿疱の際搔き崩したがるので困る、代つて種痘したら其のところを殺菌ガーゼで綑帯して置くやうにすれば搔き崩す憂ひもなく兼て又悪い微菌などの侵す憂ひもないのです。種痘したら入浴は成可く避けるやうに併し殺菌ガーゼで綑帯した儘入浴するなら先づ差支へないけれど濡れたガーゼは直に取換へて遣らなければなりません。

笑ひ聲と品性

近頃の或雜誌に見えたことですが某醫士の調だと云ふものゝ中に小兒の笑ひ方で其性質を知ることが出来ることと云ふことがありました。そして其判別の標準と云ふのは

ハ調を先にして笑ふ子供は淡泊で勇氣がある。
ヒ調を先にして笑ふ子供は憂鬱或は偏屈であ

る。
ホ調を先にして笑ふものは臆病で斷決力に乏しいが併し深切である。
ヘ調で笑ふのは偽善家や惡人になるものだといふことです。
是は奇抜な議論で眞偽は頗る怪しいものですが併し幾分の眞理は其中にあらうと思ひます。何故と云ふに是等筋肉使用の習慣は其体育や平常の習練の結果でありますから従つて其人を察するには屈強の觀察點となるものが出来るだらうと思ひます。例へばアハ、ハと言ふ笑ひは腹の底から打ちまけての發表で多少磊落な人、淡泊な人でなければ出来ない笑ひです。父母や教師は大に此種の研究をしてほしいものです。





女學生墮落の遠因

東京高等女學校長

棚橋 絢子

近時、女子教育の盛なると共に、妙齡婦人の、や
ハ才學ある者にして、却て敗徳汚行の開えある者
勢からず。世は所謂女學生の墮落を絶叫するの聲
益々高まらんとす。これ實に國家の爲め等閑に附
すべきものにあらす。識者の慨嘆に堪へざる所な
りとす。思ふに之が原因たるや、言ふまでもなく、
我國文明の粹を放擲して、徒に西洋文明の花を玩
ばんとするに因由せるものにして、已に維新後四
十年の今日、智育を主として、徳育を従とし空理
を重じて實際を輕するの弊あるは、容易く矯正し
難き所なり。妾は、世人の如く、徒に西洋の文物
を云々するに及ばず、人倫道德の上に於ては、我
國古來の徳教を遵奉すれば充分なりと考ふ。我國

古來の徳教とは、即ち孔子教をいふ也、孔子の所
謂忠信孝悌、仁義禮智、溫恭貞淑は、人間道德
の總ての場合を盡したる聖教なり。智育躰育は
措いて論ぜず、徳育の點に於ては小學、論語等の
聖教にて充分なり。而して空理より實際を重ぜよ
智識より道德を貴べ、學問より家事を目的とせよ
といはんと欲するものなり。

所謂女學生の墮落到就ては、種々なる原因の錯
綜して、今一概に之を舉示すること難からん。さ
れど妾は、その遠因、源泉といふべき有力なる
ものは、戀愛の二字なりと信ず。由來我國に於て
は男女の別を正し、苟も此間に於て、禮を失する
を以て、士女の恥辱なりとす。故に士君子は之を
口にすることを恥ぢ、人情も以て優美に、國風も
以て高尚なりき。然るに何者の愚か、青年男女の
動もすれば陥り易からんとする痴情を、如何にも
神聖にして清潔なるが如く、言ひならし、即ち戀
愛の二字を案出せり。戀愛の二字たる、文字にあ
らはす時は、如何にも高尚にして、神聖なるが如
きも、其實は野卑にして劣等なり。即ち卑陋にし

て苟も士女の口にすべからざるものを以て、如何にも清潔なるやに言ひ慣らせり。之を以て男女の所謂痴情を言ふもの、得たり實しとして、正々堂々之を言ひ、之を行はんとす。妾は。固より戀愛の二字の、如何にして譯出したるや否や知らずと雖も、今の新聞雜誌又は著書の、戀愛の二字を妄用して、青年男女墮落の資に供しつゝあるを見て、轉た感慨に堪へざるなり。

古より青年の弊は、男女の性慾なり。されば、この時期に於て、最も此の弊を矯めんとすべき筈なるに、却てさはせずして、或は之を煽動せんとす、豈に無責任の至ならずや。青年男女寄れば即ち之を談ぜんとす、之が弱點に乗ぜんとするは、果して誰人なるや。故に妾は、世の囂々たる女學生墮落の主なる遠因として、戀愛の二字の流行に歸し、從つて戀愛の二字を世に流行せしめたる、世の新聞雜誌の責任を質し、尙今後世の先進者の戀愛の二字を固く使用せられざらんことを、偏に希望する者なり。

經濟的人生觀

六

佐治實然氏は先頃某處の演説に於て人生を經濟的方面から見て之を左の八種に分類して話された。それはこうである。

第一幼年時代 やりきれない程世話を焼かせる極めて、不經濟なる生活、

第二寄生的生活 玄關番、居候、老人の類で經濟上無價値のもの、

第三屍位の生活 屍位粗餐の輩を指すので所謂貴婦人の生活や親類りの富豪連のことを云ふので、經濟上は三文の價値もない、

第四自然的不具者 是は云ふ迄もなく經濟上零である、

第五不正手段によりて生活するもの、是も經濟上の價値は無論マイナスである、

第六勞働に依りて生活する者 之れ國家を組織する要素でもあり、中堅でもあると云ふ者だ、

生産上より云へば確かに優秀の位置を占有するの資格はあるが、彼等は教育とか、政治と

第七

公共事業に依り私的生活を営む者、官吏、宗教家、教育家、議員等である、授爵授勳の沙汰に接し、國家より有用の材なりと目せられ馬車を驅つて奔走して居る人も尠くはないが、其當人の心に聞きたらば、何も國家の爲に働いて居るのではない。當老後安逸なる餘生を送らん爲め。月俸を頂き、年末賞與金を貰ひ、年金を頂戴すると云ふのを當込んで居るのかも知れぬ、否斯る人は決して尠くないのである、此れ等の人は取りも直さず口の爲めに働く人で、國家の爲に働く人でないと云ふ事が出来る、彼の教員が第二の國民を造るなどと云ふけれど、實は月俸を貰つて自分の口を糊する爲めである、議員も然りで國家

第八

私營的事業に依りて私的生活を爲す者の、これは第六に次で經濟上有價值なものである、譬へば會社銀行關係者の如きもので、無數の職工に自活の資を給し、更に其附近の住者にまで直間接に之を益し、會社の爲に大に働く、此等の人は誠に經濟上の優勝者、語を換へて云くは斯界の光明である、若し茲に斯の如き位置にありながら、質素の生活を営みて、餘力とは之を社會の事業に投じ以て社會の利を圖るに餘念のない程の人があつたならば、夫れは經濟上の第一位に座すべき人である、諸我等は右の中何れに屬するであらうか頗る耳の痛い否眼のいたひ次第である。





婦人の病氣

醫學士 F. W 生君

婦人生殖器の病氣は文明の進歩に連れて、益々
 猛勢を逞うするやうである。故に此病氣は野蠻人
 より文明人に多く、下等社會よりは上流社會に
 多く、田舎よりは都會に多い。今日に至りては「子
 宮が悪い」とか「月經が不順だ」とか吐くものが
 比々相接すると云ふ有様で、日常の新聞雜誌紙上
 でも「婦人病一切よし」とか、「子宮病の特効あ
 り」とか云ふ様な効能を并べ立てた賣藥の廣告が
 益々多きを加ふる様になつた。これ誠に個人にと
 り并に國家にとつて悲しむべき現象で、婦人の生
 活及び習慣中、何處にか衛生の方則に背戾た所が
 あるからでは無からうかと疑はれる、故に世に若
 き婦人にして能々一心を顧みて、苟しくも悪しか
 らんと思はるゝ習慣があれば、速に之を取り除く

やうにせば、奸商に欺かれて如何はしき賣藥にア
 タラ大金を失ふことも無く又之がために徒に身體
 を害ふことも無かるうと思はれる。

婦人病には種々あるが、子宮が通常の形を失ふて
 前後左右に曲るとか、或は普通にあるべき位置を
 轉じて一方に片寄るとか、又は下方に下がるとか
 云ふことがある。是等の變位若くは變形のため多
 くの苦痛を起し、屢々局部に潰瘍を生じ、又白帶
 下及び月經不順等を來すことがある。

白帶下

とは病氣の名では無くして、只生殖器に變異の有
 るのを示す一つの徴候である。服裝の不適當のた
 め腔の粘膜に充血を來すか、感冒をひくか、若く
 は胃弱に悩めるためにも亦白帶下を見ることがあ
 る、耳、鼻、咽喉、眼、腸、生殖器等の様に絶え
 ず外界の空氣に接觸するところは、凡て粘膜と稱
 する薄き膜より掩はるゝもので、此粘膜は其乾燥
 を防ぐがため絶えず少量の粘液と云ふ水分を分泌
 するものであるが若し或原因のため此粘液分泌が
 度を超ふる時は、通常之をカタルと云ふので、

腸胃カタル咽喉カタルなどと云ふのも皆此粘
液分泌の過度である状態を指すのである。白帶下
も亦生殖器の粘液分泌の過度なるがため生ずるも
ので、月経の前後には通常多少の粘液分泌の盛に
なるものではあるが、之が何時迄も長引いて其分
量も益々多く、且つ悪臭を放ちて其色も血性を帶
びることがあれば、學術手腕共に優れたる醫者に
就て丁寧なる診察を乞ひ、自分からも能く衛生の
常則を守つて其攝生に心掛けねばならぬ醫療を加
へやうとするには、醫者の撰定を誤つてはならぬ。
玄關を廣くし廣告を大にして患者の耳目を引かん
と欲し、『數日間にて全治すること請合なり』とか、
『禮狀山の如し』とか大言する醫者は大くは山師
で、學理實際よりは口と舌とで醫業を營む輩であ
るかゝる山師は巧みに僞言を弄して一方には病氣
の重きを云ひて患者の心を驚かし、他方には自己
の技能妙藥を誇つて患者の信用を繋がんとする。
其手段の陋劣卑屈なること寧ろ驚くべきである。
不幸にして讀者諸姉の中に婦人病に悩み給ふ方が
あらば、斯る山師醫者の甘言と奸策とに欺かれぬ

様に注意すること肝要である。
生殖器の病氣は成る可く之を秘密にして親兄弟に
も打ちあけず、獨り自ら心を碎て免やせん角やと
悶へ煩うのが人の常ではあるが、さりとて徒に手
前療治を施すのは大に驚しむべきことである。一
旦病氣になれば心の迷ひの生ずるは誰しも同じ
ことで、我ながら笑止と思ふ事に迄も眼のくらむ
ものであれば、平素健康な時には『賣藥など』と一
笑に附し去つても、イザ病氣となれば『中將湯』と
『月さらへ』と『通經丸』よと人知れず秘用するもの
も少からぬのである。成る程數多い人の中には之
を用ひて多少輕快したと云ふものもあらう。然し
ながら之は寧ろ僥倖りと云ふもので、何れの婦人
病にも効能があると云ふ道理が無い。従つて長く
之を信賴にして適當時に適當療法を怠れば、益々
重態不治の有様に立ち到るの虞れがある。
故に自分一人の心に決し兼ねる時には、早速『か
いりつけの醫者』を訪ひて事情を具し、其指揮を
仰ぐのが安全である。若し他の醫者に診察て貰ふ
と思ふならば、道德心が堅固で、人格が高尙で、

相當の學識經驗を備へた者を撰ばねばならぬ。自分からは消化し易い滋養物を日々の食料となし、衣服は清潔にして寒からぬを度とし、充分に睡眠し、適度に運動し斯て全身の健康を助長する様に心掛ける。腰湯全身浴冷水摩擦は身體を清潔ならしむると同時に、血液の循環を良くするものであるから、白帶下、血液の鬱滯、月經不順其外の生殖器に効能がある。

初めて月經のあるのは我國人では平均十四五歳であるが、中には十一二歳頃からあるものもある。十七八歳になつても無いものもある。體質が虚弱で榮養の良く無い女子は全身の活力も乏しいから、月經を見ることも遅く或は全く見ぬことがある。

かゝる人は一般の榮養を高めて其健康を増すべき筈で、人爲的に出血せしめやうとして催經藥などを用ふるのには宜しくない。體質榮養共に良き相當年齢の婦人に月經が無くつても、別に方法を講ずるに及ばず靜に表はるゝ日を待つのがよい。

月經が只一度あつたのみで、其後數週數月を経て再び之を見ることの無いのは珍らしくない、他

に何等の異状も無ければ別に心配するに及ばぬ、只心身を安靜にして其過勞を避ける様にする。少女などでは學校へ通學する間は月經が無く、休暇になれば表はれてくる事がある。これは腦力精神を勞する間は活力の大部分が其ために費されるから月經作用を營むには力の足らぬためである。

故に心身の安靜は必要である。

經血の分量。少ければ如何かして之を増さうとするものもあるが、全體經血の過量なのは寧ろ人爲的生活の結果であることが多く、平素の生活が自らの規則になつて居る程經血の量も少いものである。故に全身の健康さへ異状が無ければ、よしや經血の分量が少くとも決して心配するに及ばず寧ろ己れの生活が自然的であるのを喜ぶべきである。然し感冒疲勞、心配、苦慮、神經衰弱などの爲めに急に經血の分量が減じ、局所、或は全身の病氣の爲め徐々に經血量の少くなる様な時には、宜しく醫者の診察を乞ふて其病源を見極めねばならぬ。

月經は通常三日乃至七日位續くもので、四日乃至

五日位の者が最も多い。其出血の量は平均二百五十瓦位であるが、人によりて多少の相違がある。故に月經の長い短いと云ふのも、出血量の多い少いと云ふのも要するに比較上の言葉であつて、其間に一定した標準のあると云ふのでは無い。例令分量が多くても身體の衰弱も無く、貧血する様子も無ければさして心配するにも當らない。只月經前から心身の過勞を避け、月經中は靜に安臥する様にし、或は下腹部に濕布綑帶を當て、便通をとるのへ、消化し易き飲食物を攝る様にする。全身の衰弱を覺える時には早速醫者に診察貰ふ。徒に通俗衛生の書物や、素人の言葉を便にして勝手氣儘の手前療治をなし、或は賣藥の廣告に欺されて恢復し難き後害を貽し、他日の悔ひを招かぬ様にするのが肝要である。(婦人衛生雜誌)



▲可驚健足なる老人 米國のヘーソン、ウエストン氏は徒步旅行家として有名なる人なるが本年七十歳の高齡に達し居るに拘はらず此程同國のホートランドよりシカゴまで千六百廿六哩の徒步旅行を思ひ立ち二十六日間に進する豫定にて出發したる由なり氏は今より凡そ四十年前に同じ道路を廿四日廿二時間四十分に進み又百哩の距離を二十時間と二十分にて歩みたるもありて大に世人を驚かしたるとありと云ふ

▲昨年のノベル賞牌受領者 世界に於ける最高名譽の賞牌と稱せらるノベル賞牌を昨年末に受領したる人々は平和に於て伊太利のエルネスト、モネタ氏及佛國のルイ、ルノール氏にしてモネタ氏は昨年伊太利に開かれたる平和會議に盡力したるにて名高ルノール氏は佛國派出の海牙仲裁々判所常任委員なり化學に於ては英國のサークルークス氏にして同氏はサリユムの發見ラデオメターの發明及び空氣中より窒素を得る方法の發見を以て有名なる人なり文學に於ては有名なる英國の文豪ルザード、キプリング氏にして醫學に於ては佛國のラゲエラ博士理學に於ては米國シカゴ大學のミケルソン博士化學に於ては伯林大學のブツフネル教授なりし由にて賞牌に附屬せる賞金は各七万六千圓なりしと云ふ

育兒の經驗

光藤泰次郎



一子實

律義者の子澤山といふ諺があります、私が律義者であるか否かは他の評に任せるとして、兎に角私は子澤山であります。八歳になる長男を始めた、次女、二歳の三男と都合五人あります。成る程十人十五人の御子様を御持ちになる方と比較いたしますれば、敢へて多いといふ譯には行かない、謂はゆる物の數でないかも知れませんが、四歳三歳二歳と三年連發したので、瘦腕には随分の重荷である所から殊に多いといふやうに、深く感ぜ

十二

られます。さて山上の憶良でありましたか、萬葉集に、瓜はめば、子供思はゆ、栗はめば、ましてしのばゆ、何處より、來りしものぞ、まなかひに、もとなかゝりて、やすいしなさぬ、といふ長歌をよみまして、其の反歌にも銀も黄金も玉も何せんに、まされる寶子にしかめやも、と喝破いたしました。この方、金銀珠玉、七珍萬寶にもまさるものは子實であると相場がきまつたやうにあります。さて天から授かつた此の子實を、日夜大切に守りかしづいて、幸今日までには、一人も數をへらす、又大した病氣にかゝらせた事もありません、皆健全で生ひたち行くのを深く喜んで居ります。

二 哺乳

さて子供に哺乳を致しまするに、何の乳が一番滋養があるかといふに、醫家の説によりますと、母乳が第一で、若し生の母に乳汁が分泌しない場合には、乳母の乳が宜しい。第二が牛乳で、第三がコンデンス、ミルクであるといふのが一般の定説のやうにあります。ところで私の宅では長男や長女を乳養する時に、母乳は十分に出ましたなれ

ども、母もさる處に勤めて居りますので、母乳のみで養ふ譯に参りません。そこで母の留守の間は牛乳を以て母乳に代用するをいたし、なほ足らざる時はコンデンスミルクを以て補ふをいたしました。其の成績如何は頗る痛心いたしましたが、意外にも好結果を得まして、五人が五人ながら皆健全に生ひ立つて行きます。甚だ愉快に感じて居ります。さて哺乳をしまするに時間を定めてするとの得策なるは、改めていふまでもありません、苟も育児法の一冊を読んだものは誰も承知して居るとであります、其の實行は恐らく百人が百人難んずる所であらうと思ひます。一言で申しますと今までの習慣に束縛せられるので、其の習慣の力づよきを日本の社會に、泣く子と地頭には勝たれぬといふ諺があるによつても思ひ合はれます。母なる人は時を定めて哺乳すると覺悟はいたしましても、子供が泣き出すと、自分自ら氣がよはく、何となく可愛相なる心持がして、我と規定に背くものがありますし、或は祖父祖母が居りましたは可愛相だから早く乳を上げなさいといはれ

ますので、心ならずも時間を守らなくなるをありますし、又家屋の構造から子供の泣き聲が近所合壁に聞えては、迷惑でもあらうし、又不仁な所行であるかのやうに思はれはしないかなといふ決心が鈍るともあるのです。所が宅では幸か不幸か母の外勤して居るといふことから、却て哺乳時間を正確に定めるとが出來たのは意外の幸福でありました。たい困つた事の出來たのは、長男が乳を呑む頃、母の乳が澤山出ますから、夜吞ませ吞ませしましたので、晝夜を顛倒させてしまひました事です。即ち晝間はよく眠る、夜はよく乳を呑んで、非常に母を困らせました。

三、食物

世の中に子ほど可愛いものはありますまい。又子を愛する愛情ほど自然で純潔で強盛なものはありませんまい。されば何處の親にいたしましても、我が食物を減じましても、我が着物を着させんでも、我が子良かれと祈るのがなべての親の情であります、この愛情があればこそ、人間の子といふものが育つのであります。この情愛があればこそ

そすべての動物に比して、非常に手数のかゝる子供といふものが無事に生ひ立つのであります。さながら此の情愛を満足させる方法は、千差萬別であつて、人により家により、種々の方法を取つて居られるであらうと思ふが、其の結果たるや、眞に子供の利益になるとばかりではなく、却て兒童に不利益を與ふるといふやうなことも、往々世間にあるやうに見受けられます。食物の如きも、子供可愛さの一點から、或は身分不相應の美食をさせたり、或は子供に不相應な滋養食をさせたり、贅澤の悪習慣を養成するといふとがあるやうですが、私の處では先左様のとは一切させぬやうにしてあります。それで親が見つくるつて與へたものは、甘いとか不味いかと、決して彼此言はせません。當てがはれたものは誰でも大人しくたべるやうにしてあります。

四、衣服

極端かは知れませんが、私は子供は男の子女の子共に綿服に限ると思ひます。それから又つくり方は男の子も女の子も共に筒袖に限ると思ひます。

成る程世間の風潮を見わたしますに、男の子だけは綿服主義筒袖主義が流行はれ來ましたので私は大に喜んで居るのですが、此の反對に女の子は一年と非常に贅澤に流れて來て、華奢を競ひ、派出を爭ふといふ有様で、實に苦々しく感じ居ります。諺に京の着倒れと申しますが、女の子の服装を見ますと、此の京は西京と解釋せず、東京と解釋しても當てはするやうに私は感じます。それ故に私は女の子の立派な服装をして居るのを見ても、あれは縮緬の三枚がさねか、これは縮緬の裾模様か、それが當時流行の絞羽二重か、實に立派だ奇麗だ美しいなどと感じたとはない。いつでもあゝ馬鹿な事だ、親は立派な美しい着物を着せて、女の兒にも満足させ、自分も満足して居るだらうが、子を愛する方法を誤り、我が愛子の將來を誤る仕方だ、女の兒の虛榮心を増長させ華美を好み贅澤に馴れさせて、それが何の爲になると笑つて居る次第である、成る程女の子は男の子と異つて着物の善し惡しをいひ、善いものを欲しがり美しいものをねだる風は確にあるから、何



も縞なり柄なりを強ひて男の子と同様にする必要はない、無論異はせて宜しい。さればとて幼稚の女児に縮緬なり紋羽二重なんどは一切禁じた方がよからうと思ふ。しかし女親は矢張り氣がよわく、或は世間の人が皆美衣美服をして居るのに、うちの子ばかり質素な身装をさせてかくと、子供の氣象がいちけはせぬだらうか、ひがみの心は起しはせぬだらうか、など、心配をしたり、或は娘の時代が二度とあるではなし、立派な身装をさせてあげやうなど、考へるともあるものです。しかし親なる人に主義があり、主張があつてするならば、子供といへども矢張り其の考にするとは出来ると思ひます。そして子供等に向つて、お前方には寒からず、見苦しからぬ丈のとはしてやるが、よい着物が着たくば自分に出来るやうになつて着よと誘ひよかせておきます。

五、運動

親の身にとつて何が一番心配かといふに、子供の身體の弱い程氣になるとはありますまい。それ風邪をひいたといつて心配し、それ熱が出たといつ

ては醫者の所にかかけつけ、それ咳嗽が出るといつては、吸入をかけ、そら引きつけたといへば氣も顛倒するばかりに驚き、水よ藥よ醫者よとあわて騒ぐはこの家にも有り勝の事でしょう。實は子供の病氣には親の壽命はちやまる位なものである。これ故に親たるものはどうしても子供の身體の健全を積極的に計らねばならぬ。一鉢この哺乳なり、食事なり、衣服なり、一面は無論精神の修養に關して居るが、一面大に身體の健全不健全に關して居るのである。そしてこれ等は皆あまり大事をする醫家の説には賛成出来ぬのである。運動に於ても又其の通りで、水いただらをしては冷が起るの、土間に跳足で下りてはいたかろらうの、など大事ばかり取つて居ては仕方がない。活動は兒童の生命で、彼等は目の覺めて居る限り、何かせずには居られぬのである。それ故に何かよい遊をあたへ、之を指導してやらぬと、障子を破る、襖を破る、新聞を破る、書物を破る、火鉢を持つ、火をかきまはす、箸を持つ、汁をこぼす、茶碗を破る、彼等の本能は活動にあり、彼等の使命は破

壊にありの感がある、教育思想のない父母や、兄弟や、乳母や下女は、そらあぶない、そら破つた、そらこぼした、そらどうした、そらかうしたと、忽ち彼等を抱き、忽ち彼等を背負ひ、彼等を乳母車にふしこめ、以て活氣充滿して、活動と本能とし破壊を使命とする兒童の自由を奪ふ。哀なるかな、兒童は其の自由を奪はれて、其の本能たる活動をするとも出来ねば、其の使命たる破壊を果たすとも出来ず、充滿せる活氣漏らすに由なし。それ故に如何に滋養物をとらしても、如何に衣服に注意しても、病氣にかゝり易い、顔色が青ざめて居る、決して肥えない、決して太らない、然るに我が家の如きは、人手の十分ならざる處より、注意して放任してかく、否注意が十分行き届らずして放任してあるとがあるかも知れぬ。けれども天道人を殺さず、皆善い鹽梅に大した病氣にもかゝらず、皆健康で、肥えてだんだん生ひ立つて行きます。

六、運動
私は又子供に一種妙な運動をやらせます。これ

は亞米利加の人がやつて、非常に子供を强健ならしめたといふを新聞雑誌などで見て、之れに倣つて始めたのですが、子供の數へ年二つになつた頃からやります。その仕方は、先づ子供を自分の方に向かせて、こちらの兩手で、子供の兩手を別々につかまへ、子供の足が疊をはなる程、引き上げ、之を左右に振るのです。老人や女などが見て居ると、實に劍呑がりますして、腕がぬけはしないか、およしなさいといふ。しかし徐々にやりさへすれば、二歳の幼時でも、決して抜ける氣遣はありません。今度は手のとり方は前と同様で、之を上下にあげさげするのです。次は幼兒を仰向けにねかしたり、或は腹這ひにさせたりしてかいて、其の兩足を持ちて、左右に振るのです。これは女の兒などは最初は泣くのもあります。しかしそろそろならせばいつの間にかなれてしまひます。手の方も最初は一寸痛みを感じるやうに見えますが、ちぎきに馴れてしまつて、之を歓迎するやうになります。二年もやると手の力は非常に發達して、道

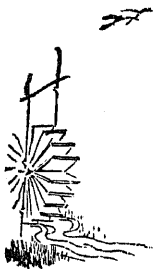
も三丁でも平氣で行くやうになります。醫者にはすと、それはあまり過激な運動だとか、腦に故障を起さうとか、いふかも知れんが、私が之を四兒に施した結果では、決してそんな憂はありません。手足の強健を直接に増したは無論、間接に身體の健康を益したと少からぬと思ひます。しかしこれは御婦人には出來ぬかも知れません。第一思ひきりが出來ません。第二、四年なり五年なり毎日つゞけしむる根氣がいかにでしよーか。

八、運動と睡眠

ねる子はふとるといふ諺がありすが、どうも眞理のやうに思はれます。書間の間十分活動をして、食事を澤山とつて、食事の最中からこつりこつりと居眠りをはじめて、寢床へ移されたのも知らず、それから一度も眼をささないで、翌朝までぐつぐつ眠つて仕舞ふ子供は實に羨しく思はれます。年齢によつて幾分相違もありすが、兎に角十時間以上熟眠が出來るのであるから、日に日にふとるそたつが目に見えるやうに思はれるのも無理はない。さて世間にはやく子供をねかせつけるとい

ふことをやるが、随分無理な事があるやうだ。また活氣が消費しきれないので、睡氣が來ないうちに眠させようと思ふから、大變に子供に世話がやけるのである。宅ではさういふ場合は、子供と一所になつて、例の運動をはじめ、又かけつこをやる、とびつこをやる、唱歌をうたふ、すべて活氣をもらしてやると、直に睡氣を催す、横になるとすぐねいるといふ有様で、誠に世話なしである。

(おしまひ)



糯と粳と何方が消化し易く又

滋養になる乎

農學博士 澤村眞氏

粳と糯とを比較すれば、糯は白色で粳は灰白色であり又之を炊けば糯は粳より粘氣が甚しく強い、而して化學上の性質に至りては二者の間に更に之より大なる差異がある、粳を煮て沃度丁幾を注げば藍色を呈すれども、糯は此場合に赤紫色を呈する。沃度で藍色を呈するは澱粉の反應であつて粳は八割以上澱粉から成つて居る。然るに糯は藍色を呈せず赤紫色を呈するので、或人は糯は澱粉より成らずして糊精より成つて居ると云ふ、或人は糊精ではなく矢張り澱粉ではあれど普通のものとは違ふと云ふ。然し糊精であつても澱粉であつても滋養の點は大なる差はない。澱粉は吾人の腹に入りて消化さるゝときには一回糊精となり之より漸次麥芽糖となり葡萄糖となり終に吸収せらるゝ、故に人工消化試験を行つて見れば粳よりも糯の方が消化が早い。然し糯の餅についたものは粘

りて塊となつて居れば飯に比べて消化が容易であるや否や頗る疑はしい。糯と粳との滋養の優劣は如何にやと云ふに私が東京各區から買集めた各等級の白米の平均組成は次の如くてある。

十八

固形物百分中

	蛋白質	脂肪	炭水化物	灰	分
日本産(糯)	七、一九六七	〇、二八五	八九、〇三四七	〇、四〇二	
外國産(糯)	七、一六三	〇、四七三	九一、〇七三七	〇、六三七	

此の如く日本産も外國産も糯は粳よりも蛋白質と脂肪とに富んで居る。蛋白質、脂肪、炭水化物は吾人の食料中の三養分であるが其効用などは多少異なつて居る、滋養の効を比較すれば、炭水化物と蛋白質とは略同一で、脂肪は之より約二倍半程有効である。又價格の點を比較すれば蛋白質最も貴く、脂肪之に次ぎ、炭水化物最も廉でありて、其比較は五と三と一との如くである。されば同様に乾きたるものであれば滋養から云うても價格から云うても糯は粳に優つて居る。(續實)



子供の遊戯の種類

小出末三

はしがき

遊戯と云へば、保育事業中最も重要視せらるゝものであつて、我が附屬幼稚園の時間割を見るも、保育時間中四分の三を占めて居る處からして、遊戯の價值がいかにやうであるかと云ふことは、今更めて此處に喋てするの要はない、それで保育法の研究をなさんとするには、先づ遊戯法の研究が第一である、遊戯法の研究さへ出来れば、保育事業の大部分は成功したものと云つて宜しい、さきに本會が編纂せられた幼稚園遊戯なるものは、實に斯界の羅針盤であり、保姆諸姉の虎の巻となつて居るのであらふ、それに今蟠螂の斧と知りつゝ、筆を揮つて同好の諸姉に相見ゆるのである。古來諸學者が種々の見地よりして、遊戯の分類

を試みたものが多い、けれどもそれは暫く措き、此處には、幼稚園の鼻祖「フレイベル」氏の分類法に基いて述ぶことにしよう。

氏の説に隨へば、遊戯を分つて三種とするが、其第一種は曰く。

遊戯は現實の生活の模倣である。

兒童の生活状態は單純孤獨でない、よし單獨であつても、社會に出でては複雑である、其環境の影響こそ、生活状態の模倣として表はるゝものである、孟母が三度居を遷したる如きは、其環境が非教育的であつて、孟軻が此生活状態を模倣したからであらふ、兒童が模倣心に富んで居る一二の例を挙げれば、農家が野火を入れるを見て堤防に火を放ち、人家を焼くやうなことや、芝居の眞似をして、友達を火の中に入れたやうなことや、其他父が教接を撰閱するを見て、其不在中に秘藏の本に朱筆を加へたと云ふやうなことなどがあつて、兒童の模倣心は、多くは新奇に向つて左右せらるゝものである、それで兒童の環境をして、教育的ならしむることが第一の急務である、然るに幼兒

は四六時中教育専門家の膝下にあるは僅々其六分の一ぐらゐで、残り六分の五は、家庭や社會の間に立つのである、世には全く完備せる家庭もあらんが、社會は必ずしも教育的でない、又如何に完備せる家庭と雖も、幼稚園に於ける保育の狀態とは、趣きを異にしてゐる場合が多くあらふ、是に於て幼稚園と家庭との連絡を計る爲に、年一二回母姉懇話會あるを見るが、直接保育の大任を負へる母姉と懇話するのであるから、必要は無論必要であるが、此處に大に研究の餘地を存ずると思ふのは、附添人取扱ひ方である、何處の幼稚園でも、附添人扣所として一室を設けてあつて、附添人の多くは其一室に居して編物などに餘念なく、幼児の歸りを待つて居るのである、退屈の餘り偶々室外に出づるも、幼兒と遊ぶことが出来ないばかりでなく、處によつては附添人が運動場内に入るを禁した處もある、是等の事は附添人が保育上の妨害をなすとか、保育室が狭くて附添人を入れる、餘地がないとか、種々の點より止むを得ないこともあらふが、取扱ひ方如何によつては、保母實習科

生とでも云ふやうな待遇も出来よう、然してなるべく幼兒に付き添はせ、室内に或は運動場に伴はしめたならば、保育の方針を知らしめ、其實際を観察せしめて家庭に於ける保育の連絡ともなり、折には大小便の世話も出来て保母の手を省き、一舉兩得の方法である、家庭に於て母姉が與ふる感化は無論大であるけれども、子守や、附添人や、下婢等の及ばず影響亦大である、斯くて其環境をして教育的たらしむれば、幼兒が生活狀態を模擬して、此處に初めて保育の目的を達することが出来るのである

生活の模擬として表はるゝ遊戲の種類
 兒童の遊戲は實に社會の小模型である、而して日常生活は、生活狀態の模擬は

子守、角力、戦争ごっこ、
 學校遊び、兵隊遊び、電車ごっこ、
 汽車遊び、まゝごと、御興かつぎ等であつて、
 徒歩競走などがよく行はるゝやうである、此他生活狀態を模擬せしむるに足るもの種々あらんも、左に列記するものは保育事業に貢献する處大なり

と信ず

荷運び、花壇の手入、綱引、車夫、

船乗り、賣買等

此他手技に關するやうであるけれども

架橋遊び、建築遊び等は、一致協同して事を

なすと云ふ點に於て効果あり

遊戲の實際

一子守

幼兒は即ち子供である、彼等は自分を守りされ

たやうにして、自分より年少者を守りすることを

希望するものである、嬰兒の生るゝや、其の兄弟

は、自分の一身も處置するに困難しながら、或は

之を脊負んことを求め、或は之を膝に載せんこと

を望むのである、嬰兒の重さが耐へられないと自

覺しては、之に代用するゝ人形を以て満足するの

である、幼兒時代は嬰兒と人形も左程の區別がな

くて、同様の愛を濫いで待遇するのである、此の

遊びによつて、彼等は弟妹を愛すると云ふ一種の

情を養成することが出来る、以上は幼兒の自發活

動に過ぎないが、遊戲として誘導するには左の餘

地あるべし

第一年少者の組にありては、人形は破壊しない

ものを與へ日常は之を棚に飾り置き、保姆の手

によつて之を脊負ひ或は抱かしむ、其の汚かさ

いるを奨励し、よく守らせしめ、人形と談話の

練習をなす機會も多かるべし、

第二の組にありては、普通の粘土を以て作りた

るものを與へ、破損の虞あれば取扱ひ方にも注

意せしめて、物を丁寧に取扱ふべきことを知ら

しめ、之を破損せず、之を汚さるるを賞揚す、

或は之に帽子をつけさせ、外套をかけるぐらゐ

のことは出来る、之を脊負ふて奔走することも

出来るから負ひ事競争をなさしめてもよい

第三年長者の組にありては、保姆の手を離れて

人形の世話をさせるやうにして、進んでは友達

相互に子供となり、子供となりて遊ばしむるの

である、姉妹遊びなど云つて、手とりて奔走

することや、姉が妹の世話をし手とりて駆

け出すことや、出来るならば負ひ事も宜しから

ふ、此程度に進んでは、人形が變じて友達を代

用するのである
用具とする人形は、家庭に於ける玩具にて可なり、棚の都合にては交代に持参せしむるの方法をとりたいが、幼稚園に於ては標本となるべき人形を備へ置くべきことは勿論である

そまつにすなと、母上の

おはせたまひしこの人形

きものをきせて、をびしめて

箱のひでんにすわらせん。

きものはみどり、をびはわか

もやうはまつにしづらうめ

なくなよくな。をやすみの

ひにははなみにつれゆかん。

あばれるねすみ、じやれる猫

人形のいへをやぶるなよ

學校すみて、かへるまで

待てよ吾身を、をとなく。



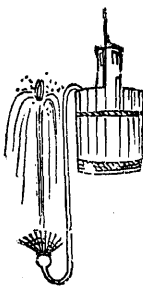
ひい、垢切れ、霜焼、などで御困りの方は左の處法にてベルツ水をこしらへて日數つまけて局部を摩擦すると効力があります。

苛性加里液 四、(或は硼酸末二)

リスリン 二〇、

アルコール 二〇、

水 四〇、



幼稚園に於ける所感 の一ふし

和田 倉子

凡そ世の中に大切な務は、いろ々でございますが、其の中で最も重要な者は、幼児の保育であると思ひます、私は、及ばずながら日々樂しき園で、幼稚園時代の子供の世話をして居りまして、いつも感じます事は、保育者の顔色並に言語が、どれ程幼児にうつるかといふ事です。

若し、少しでも、身體の具合あしきとか、又は精神上の不愉快で、氣分のすげれない時は、いくら自ら注意しても、何となしに顔色に表はるゝ者で、斯かる場合には、幼児の心中に印象をうつして、自然幼児も常と異なり、不快の色を表はし、従つて動作も不活潑不規律に傾き、其儘に放任し置く時は、遂には、どこから手を出してよいかわ分保育上困難に感ずる事があります、丁度、周囲の空氣が不潔であれば、其の中で育つ子供は、どうしても、不良の影響を受くると同じです。

之に反して常に身神共に健全なる時は、幼児も能く遊び、保育者までも、嬉しく思ひます、之はいろ々の原因もありませうが、多少は、保育者の心身の影響感化を與へて居りませぬかと思ひます。

次には、幼児に對する言語であります、元來子供は、常に周囲の事物について、熾なる好奇心を満足させんとして居ますから、種々の質問をいたします、此時に當つて、極めて正確にして簡易なる言語もて、答へなければ逆もわかりません、私は、或所に行きまして、幼児の間に對し、母親が、漢語交りの言葉もて答へ居るのを聞いた事があります、其の時子供は、不思議な顔をして、繰返し々問ふて居るのを見て感じた事があります。

因て、幼児保育の任に當る者は、常に、心神を爽快にし、威嚴と共に、柔和にして快活なる容貌と、之に伴なふ言語をも、つゝしむと同時に、幼児といふ者を深く觀察研究して如何に之を保育すべきかといふ事をも絶えず考て行かねばなりません。

保姆となりし最初の

一週間

某

女

十一月七日 木曜日 晴天 かなり空寒し

先生は、天氣と子供とは、よほど關係のあるものだと言せられましたが、實にその通りで、今日の様な空寒い晴れくしない日には、室に居る子供が多い様であります。花瓶の水を取りかへて居ますと、幼児は手傳はんと、四方八方から、小さき手を出して、争ふ様になりましたから、早く來て居る人から、漸次に手傳はしてやりました。本人の得意は、實に大なるものであります。残つて居るものには、その心中を察して、腰掛を正して置く様に命令しました。幼児は保姆の仕事を手傳ふを以て、無上の名譽として居るらしいから、これを誘導して勤勉の習慣をつけたいものと存します。

風かありませんから、庭に出て鬼事をいたしました。随分永續しても飽きません。その原因は、こ

の遊びかよほど活動力を消費するのと、鬼が代るのと、走る場所に變化があるためかと存しました。

會集の次に發聲の練習をいたしました。大失敗でありました。それは音程練習ドミソドを、アと發音してやらせる積りでありましたが、幼児の方を見て居る中に、半音の處を抑へて居たこと、アアと發聲させようとして、口つきを一度に事々しく説明したことでありました。幼児は簡單を好むものである上に、口つきなどは言葉で説明するより、直觀させるべき筈なることは、聞いて置きながら、いざその場になれば、從來の教授口調が出てしまひます。

砂場に出て、土木工事の眞似をして居るのを見て居ますと、レールや墜道を作つて居ます。その墜道の形は、天蓋が無くてたゞ兩壁を高くしたのみでありますから、天井はつけないの？と聞きますと、天井とは何と不思議そうな顔をして居ますから、幼児の瀛車の窓より觀察した墜道は、天蓋の見えざるために、天蓋なきものと思へるならんと

推斷いたしました。山を二つ作つて喜んで居る中に、木端を拾つて山頂に架し、橋が出来たといひました。山頂の橋は大人の目では雲にかけ橋の様なもので、實にかしいもので御座います。幼児には何の不思議もなし、橋を架した瞬間には、山といふ觀念が堤といふ觀念に變化したのであります。心機の変換早くして想像の自由活潑なるには實に驚きました。

それから、先生の唱歌がありました。繪畫も使用せられ、手眞似も入れられ、唱歌に連關して鶏に菜をやることなどを教へられ、多方にして變化あり、幼児も大に喜びました。

殊に敬服いたしますは、多なる變化の中に連絡があることです。

その一節を挙げますと、お馬進めの唱歌をなした後に、大變塵が立ちましたから、皆さんに水鐵鉋で水をまいてもらひませうといはれて、その唱歌をせられ、次にその水の中へ鯉を入れて遊びませうと仰つて、鯉の唱歌をせられた終に、唱歌を幼

兒に選ばしめられました。皆一聲にボートといひました。

先生の御導きでは、幼兒の連想がボートに來るのが當然である。さすかは先生よと敬服いたしました。

食後、小雨をぼち、外遊に不適當と思ひましたから、弄具室で繪を見せてやりました。男兒は動物を喜び、市原は英語でその名をいひます、坪井はその居る場所を當てます、その家庭の様の大体はこれで想像出来ました。

女兒は動物よりも手技を好み、紙折りなどをいたしました。併し兩者何れも永續せず、こゝに居るかと思へば何時か彼所に飛んで行き、頻に喋舌つたり、大なる積木で凧車を作る手傳をしたたりして居ます、その自由自在に出沒するには驚かざるを得ません。

所感。今迄から幼稚なる小供は、時間空間の觀念がないから、唱歌でも御話をするにも、前後の連絡には無頓着にて可なりと思つて居りましたが、今日の唱歌を拜見しますと、幼兒にも幼兒らしい

時間空間の觀念があると思へまして、甲より乙に移り目に、連絡あることを大に喜びましたから、唱歌にしろ談話にしろ、何でも適當の連絡をそれについて附けることが大事かと存じました。殊に、甲を利用して乙に進むといふ風は、よほど効果ある様に拜見しましたから、この點に於て大に練習を要すべきかと思ひます。

私のやうなものは、連絡にのみ腐心しますと、ついで子供らしくない、五段教授法的になり易いので御座いますから、よく變化中の連絡を、自然的に無意識的に出来る様、大に努力せねばならぬと考へます。

十一月八日 金曜日 晴天 暖なり

觀察事實

早朝。〇〇愛子は私を見付けて、遠方より走りて來ました。

〇〇百合子、〇〇孝子なども何處よりか來りて、手や袖にマトヒ付きました。

小供は一人で居ることの出来ぬものと見えます。即社會的本能によりて人にまとひつき、その中

に道德を覺えるのでありますから、よく誘導すべきかと思ひまして、いろ／＼の發問をし談話も聞いて居ましたが、その少しはなれた處に、〇〇が一人で手持無沙汰に立つて居ります。この兒のみ社會的本能の薄き筈なかるべし、氣の弱きためならんと思ひまして、呼びましたはどうも不活潑でありました。

あなた達は、成長すれば何になるかと問ひますと、藤村神保吉武はお母さんになるといふに、中島は「お姉さんになるといふ。」「それではお母さんにはと問ひますと、知らぬと答へましたから、何故にお姉さんになるかと申しますと、一等好きだからといひます。次に他の三人に何が一等好きかと尋ねますと、お母さんと答へました、これこれ等は、大人が偉人物を崇拜して、自己をそれにまで向上せしめ様とする努力の萌芽と見てよからうと存じます。これ等から考へますと、幼兒をかくせんと望めば、先づ幼兒にそれを好まさなければなりませんと思ひました。内遊を経て先生の紐置を拜見いたしました。初め

はあまり興がらす居りましたが、幼児の二三人は人の形を作りました。それを先生は早く観取せられて、貝殻を與へられ、目鼻を附けさせられました。それから、幼児は非常に喜びまして、他兒も皆これを真似て、うれしがつたこと並大抵ではありませんでした。

所感。今迄拜見する處によれば、手技などを課しますと、必ず早く出来たる子供は、かくれる子供の世活焼をしたり、惡戯をしたり、乃至はあくびして厭嫌を來たす様で御座います。これは活動生命とする幼児の本性でありますから、いたし方ありません。故にそれを防ぐ法として、早く出來上りました幼児には、隨意に他の形を作らせて居られた様でありましたが、今日は先生の紐置によつて一新法を示して頂きました。それは幼児が作つた型について、なほ一層精密にそれにつれての幼児の思想を發表させてやることであります。即人型に貝殻の目鼻を附けさせられた様なことでございます。幼児は活動性のものであります、常時その潜勢力を發表せんと努力して居るものであり

ますから、この方法は保育の要訣であると思はれます、幼児のよろこぶのは尤も、たいへん感じ入りました。これから私も幼児の製作物を見ますと先づその子供の思想を呑み込み、完全にそれを發表させる機會を與へられる様に、注意せねばならんと存しました。保育の要訣は、幼児の潜勢力を誘導し、その活動を衝動せしむるにありといふことを紐置で真から悟りました。

▲米國富豪の玩具

昨年來のクリスマスに米國に於て兒童への贈物として最も高價なる玩具を購入したるはヴァンダービルト氏なる由にて氏は五歳の幼児の爲めに六個月前より一の小自動車注文したるが此自動車は普通の自動車より形小なるのみにて一切の構造完備し價は普通の自動車の二倍なりと又同氏は邸内の馬場小形の鐵道及び停車場を設け小兒が運轉し得る小形の機關車及び客車等を造らしめたりと云ふ



馬には乗つて見る

川口孫治郎

奔馬の勢、文字でこそ左程にも思へないが、實地に於ける其勢の壯觀は思ひ出してだに眼醒むる心地がする。うち開けたる牧場の際涯の見えぬ若草の大野原に、吹く春風に緑の鬣を焰の如くに煽らして澎湃たる怒濤の如くに奔馳する放駒は、誠に天馬駛空も左こそと偲ばるゝ。壯絶の光景は逆も里や町での轡が嵌まり面繋がかかり胸繋と尻繋とが鞍にかゝつて船でからまつて居る所謂乗馬駄馬耕馬なんかの奔逸せる時の様子から比較類推の出来るものでない。

この荒駒を制するのが一寸面白い。それも多くの放牧場でやるやうな多人數がいりでは左程面白くない。何んでも唯一人で綱一筋で即座にやつつけるところ、面白味があるのである、殊に彼等の狂奔せる場合に制するのが危険の伴へる丈それ丈

面白くて却て容易いのである。

何處の大牧場にも境内の何處かに必ず並樹の通りや壁塙の間に一筋道が出来て居る。奔馬を巧に之に向はしむるが第一の技術である。既に駆け込まば逸早く他の一端に待伏せて、彼の奔馳し来るを物隙に冷静に窺つて居るのである。倉皇打つて出でては忽ち彼は折返して方向轉換をするが故に此方は飽くまで度胸をすてて時機を待つのみである

容易のこのやうでは熟練したものでなくては出来難い芝居である。が眼前僅に十歩といふ間際は砂煙を揚げて霧進して來た其刹那に、俄然として彼の前途に躍り出で仁王立と立塞がり大手を擴げて彼を頭から丸呑にして、マカリ違へば一呼吸に蹴り僵し踏み潰さん決心で、調子は低くとも、山をもゆるがす強みのこもつた一聲ドーとかくれ

ば、如何なる驛馬と雖、此一轉瞬、後へは勿論脇へも移れず、さりとて決して人を犯して前進することを得ないものである。之は彼等の天性である。

此一瞬此方は沈着の中にも極めて敏捷に彼の下顎を片手に下からつまんで拇指と食指で口の兩端を

扣ゆるや否や、用意の麻縄は他の一方の手によつて彼の開ける吻より嵌めらるのである。少くとも口に環を嵌めて面繫をかけ得るのである。之に要する時間は正しく二瞬間である。之より以後は全く此方の手加減一つでどうにもなるのである。百に一のコヂケタ奴になると尙ほ噛んだり跳ねたりする。否々駿の駿なる奴も大抵は噛むか蹴けるかの癖はある。ドウセ踴躍の癖のある奴にはそれ丈の甲斐性も概してある者である。百歩ゆづつて噛まれたとて第一回の噛みは大した傷がつく者でない。而かも片方の手で彼の鼻の穴をグツと突いてやると必ず喰へて居る方を放すに定まつて居る但第一回の喰へのまゝを再び喰へなほしをせられてはドウもフツリ遣られさうだから此第二回目の同じ處の喰へ直しをしかけた時は随分用心が大事である。併し元來噛むと蹠るとにきまつて居るものに、やらるゝは此方の落度である。此方にし度胸が据はり用意が到つて居れば彼等は口出しも足出しも出来ないのである。第一口を捉へて急所を押へられては何處で何處を噛み得るか、扱て

は塚原ト傳式に遠く離るゝか或は此際のやうに鳥山重忠的にひつ擔がんばかりの勢に肉薄して居ればドウして蹠ることが出来るか。殊に肉薄せるもの密接せるものを蹠らないのが彼のやさしい特性であるのである。見たまへ蹠らるゝ男を、必ず恐ろしくないやうで恐しいやうな附いて居るのか離れて居るのか瞬味至極なコンバイとところにグツ／＼して居ることを發見するであらう。蹠ると噛むとは彼の勝手、蹠らずと噛ますが此方の自由、それにやらるゝとは敏活にして能く坪を押ゆる制馭の能力と餘裕とを有しないからである。馬を呑むどころか馬にのまれて居るからである。少くとも馬と合体する丈の膽勇が欠けて居るからである。既に彼の頭を自由にし得べきカラミが附かば、如何に暴れても暴れるほど面白い丈の事である。熟練な好事家になると、手綱一本で、丸裸の彼に飛び乗つて、綱の加減と腰のヒネリとで流石の驛馬をも僅か半餉に乗り仆すことが出来る。併しそんな覇振つたことをしなくとも彼の轡を締めて頭部をグツト抑ゆれば何の六ヶ敷ともない。仰い

で頭を擡げてこそ恐ろしき蠻力もあれ、屈まされ
ては丸きり力の出ないのが彼の特性である。

玆に更に一段の趣味あることは、前にも述べた
所謂二瞬間の綱かけ以後に行はるゝ此方の威と思
との並行の靈妙に彼馬君に電光的に以心傳心に閃
めき映する一條である。詳言すれば彼の暴放を一
氣に呑み盡くす膽勇あり自づと閃めく威嚴の一方
に、彼を即座に我片身を類化して一体となる丈の
同情の蔽ふに蔽ふべからず何處かに自づとはの見
ゆる温容が、彼の過敏な神經に全く直覺的に傳信
するやうである。情ある手で一度其平頸を撫づれ
ばさしも荒き暴れ駒も掌を反すが如く從順になり
始むるのである。再び物に騷いても早や其轡を取
れるものゝ温容の前には直ちに鎮靜する。一握り
の情けある若草にも彼の態度は著しく改まるので
ある。玆に感情の交換が行はれ始むれば馬や決し
て馬でない、純然たる人である。

斯かる消息は實際に経験したものでなくては眞の
味が分らない。多くの人々によつて僞りとして
笑はるゝ位であるが事實は知る人ぞ知る。吾輩は

其詳しき證明の必要を認めない。

彼は非常な甘黨である。吾輩もさうと知つてか

三十

らは、田舎町の途中で暖かさうなホヤ／＼饅頭が
出來立つて居ると外聞も何もあつたものかは直に
之に突貫して湯氣の立つまゝ竹の皮包にして懷中
したまゝ歸るのである。暗の夜深けて試に拔足差
足門外に着くと、厩の内に早や愛馬の奴耳敏くも
聴きつけ而かもそれが吾輩であるといふことを能
く知つて例の如くフフンと挨拶をするのが洩る
ゝのである。門を潜つて直に彼の居に至つて前の
懷中物を取り出して暗闇ながら掌にのせて差出し
て居ると、ソツト何かい觸れたと思ふと、それは
彼が行儀よく吾輩の掌から例のホコ／＼を頂戴し
たのである。あの大きな身柄をして吾輩の片手の
平にのる丈の饅頭丈でもさも旨かりさうにやつて
居る有様が聞ながら吾輩の心頭に歷々として眼に
視る如く浮ぶのである。彼は從來多少扱い難いも
のとせられて居つたものであつたが、併し吾輩に
は全く手綱も要らない。詞もいらぬ。唯我輩の
眼付で彼の一舉一動を左右することが出來た。否

吾輩が彼を動かしたのではなくて彼と共に我輩が動いたのであつたのだらう。

春と秋との遠乗からの歸りには、家族の一切が心ばかりは犢ぎらてやつた。秣を支度するもの豆を添ふるもの、飲料を用意するもの、湯を汲むもの、運ぶもの、鹽に入るもの、扱て洗つてやるもの、それ等の待遇に對して彼は十分に了解をして居る。一日の勞苦は何のものかは如何なる辛苦にも喜んで服するまでに銘肝して居つて、いたく満足して居る有様が、世話をしてやる此方の人々にもありあり分かるので一入世話焼き甲斐があるといつて家僕も下婢も他事ならず喜んだ位であつた。彼は又可愛くも中々の音樂趣味をもつて居るのである。世俗に馬耳東風といひ、馬の耳に念佛といふ諺があるが、彼に對しては甚だ失敬な詞である。勿論彼の失驅の際東風を真正面に耳に受けるほどの必要もなかるべく、強いて念佛を解すべく寺參りの必要もなるべし、又必ずしも唐突にピヤノを聴かされたりオペラを參觀せしめられたとて謹聴も慎觀もしないかも知れぬが、若夫れ夕陽

漸く没して溪流に沿へる里道に人氣稀となりし頃谷より谷にゆれ渡る馬丁ひの無心の追分節の一曲には該一日の積れる辛苦も残る痕なく搔き梢す如くにうち忘れて唯シャン／＼と其頸に吊せる鈴の音に拍子を調へ足並揃へて勇んで歸る事實は今尙は實地に目撃することである。往年吾輩は日光の山中で一人の馬方の老爺に直接に聴いたところによると、等しき体格の馬で、等しき營養を與へ、別ちなき親切に同等の勞役に服せしめても、馬方の歌の上手と下手とによつて、馬の日の勞働の疲勞の恢復に差等が出来て其極彼等の壽命に相違を必ず豫則通りに來たすといふことであつた。吾輩も從來は左様までやさしいものとは思はなかつたが、その後は友人を頼んで時々笛をさかせてやつたこともあつた、彼頗る謹聴して居つた。のみならず其音樂家に面會することを非常に喜んで居つた。彼は又頗る付の氣兼ねする優しいものである。競馬などで勝てなかつた場合には、いたくふさいで、傍から慰藉してやつても只管すまないやうな

様子をしてスゴ／＼する、それが又いちらしくて勝たせてやりたくなる。又勝つた場合の容子といつて傍に居つても可笑ほど機嫌がよい、少し気分よくない病人でも此時の彼の容子を見ると覺えず平癒する。それで思ひ出した一條、話の序に簡単に茲に挿んでおかう。

投網鐵砲はそろ／＼貧乏、

わか(俄の意)を行かうなら駆け馬よ。

之は我輩の故山の片田舎の俚諺であるが、廢藩以後にも競馬が非常に盛んであつた地で、去秋は何處の白が勝つた、此春は何家の青が勝つた、イヤ今度来た彼處の栗毛が素敵だなどと、連山に圍繞せられた方五里許の一桃源郷裏の駿馬の持主等が互に鎗を削つて競争をして居つた。競争心は一家が馬やら馬が一家やら遂に分らなくなつて来る。其隣保までが全く馬と休戚を共にする氣になる。男性のみでない、やさしき女性でさへ非常な熱心なものがあつた。其一例は吾輩の直ぐ隣にあつた。それは大略斯うである。良縁あつて近々談しが纏らうとせる矢先に、空前の大競馬が舉行せらるゝ

ことになつた。縁談と此舉行とは何の關係もないが、此舉行を耳にした其談判中の娘は、一生一度の縁談を棚に上げておいて、豫て興内の時の一代の晴着として新調しつゝあつた一切を舉げて、我が家の選手たり我郷のヒーローたるべく打つて出る愛馬、並に其騎手、轡取り、其他愛馬の擁護者聲援者たる郷の若黨共に、サラリと分與してしまつた。馬も馬方も郷の同志の殊に若者共の喜悅と元氣とは張り裂けんばかりであつた。陽氣の發するところ金石亦透る、堂々たる晴れの馬場に、さしもに疾き遠來の選手を物の見事に五身長の差を以て駆け敗つて沸くが如き歡聲裡に、颯爽の意氣四邊を拂うて門に歸つた時、一聲へ嘶いた。多少心待に待たれし例の御嬢様が一聲歸つたかと思はれた其利那、朝來踞四邊を戰慄せしめし彼荒馬が生れ變つた如くに兎の如く仔犬の如くに只うなれて幾度かかすけく鼻をならすのみであつた。之は彼が心服——誠に心服を表する唯一の詞であるのである。何處も同じ氣の荒き馬方共も若者共も此光景に何れも鳴りを收めて頭が揚がなかつた。

只もう、御蔭で勝ちました御目出度御座いますといふ一點張であつた。殊に其嬢の新郎たらむとして居つた人の親父……即ち前の談判纏れば舅たるべき老人から、衣裳長持はドウでもよい、貰いたいの持参金でも衣裳でも扱は容貌でもない唯つた一つの其意氣を」とは夢にも口には出ないが、心の中にありやなしや、そは兎に角として早速、例の媒介者に、「先達の話は可成早くまとめた、い、好事魔多し、善は急ぐに限る」と何んだか急に居催促に出懸けて来たといふ滑稽めいた實際の事實があつた。右は決して近頃都近くでやつて居るやうな西洋がふれの競馬でない。他人の馬に金を賭けて當つて戎顔になつたりおかめ面をしたり、外づれて閨魔顔になつたり青菜面をしりする者共とは多少趣を異にして居つた。彼等の熱心は馬の可愛さの薪に燃えて居たのである。我輩は決して彼嬢と別に親類でも縁者でもない。唯の他人である。別にヒキをしたわけでもないのである。眞に馬の愛すべきを解したものは誰も斯くなるは無理ならぬことと思ふのである。

市中で駄馬や乗馬が駄々をこねて動かなくなつたり、田圃で耕馬があばれたりして居るのを見る毎に、其罪決して彼等馬に非ずして殆んど盡くは駈者騎手に在ることを熟々我眼に透き徹つて受取るのである。之は獨り馬のみでない。見給へ日本の牛も犬も鶏も其面付が一見喧嘩腰にシカんで居るではない。少しもノビりしたものが無い之は彼等の天性といはんよりも寧ろ其取扱人の邪険なるに多く基因して居るのである。尙我國民の威張るのはよいが、あらぬ方角に威張り散らして彼等動物の性を殘虐するは甚だよろしくない。少し間の抜けた満人でも四頭の馬ならば巧に使ふが、伶俐な日本人にして二頭の馬も適當に取ふものが雨夜の星の如しである。馬がわるい人がいけな

いのか、大公須かく三省すべきであらう。況んや素直な彼等に益々つけ込んで法外な重荷を負せて曳かせて、追ひ立て引きつれて、聊か阪路に苦しめば無二無三に鞭つとは何たる人間の我儘勝手ぞや。彼等馬君の或者は身に千里の資を有して空しく不遇を内に泣いて居るものもあり、幾



多功勞を積み來りたる老功の士もあらう。近くは
朔北の野に砲烟彈雨の間に動らいた殊勳者もあら
う。而かも彼等は恩給の代りに、年功加俸の代り
に、綠綬褒章の代りに、金鵄勳章の代りに、途上
に阪路に鞭撻を頂戴しつゝあるのである。茲に至
つて冷血吾輩の如きものでも何ともいへず氣の毒
に堪へぬ心地がするのである。
之と同時に端なくも偲び出づるは、駿馬載痴漢
走の一句である。之は世に良妻賢母が蕩夫治父を
も尙ほ淑然として助けて能く巳の道を全うするも
の少からざるを、有道の士が嗟嘆のあまり洩した
語であるさうだが、吾輩は人間社會の消息にあま
り詳しくない方だから、それが果して然りや否や
をあまり承知して居ない、唯動物について殊に馬
に就いて、彼等忠貞の駿馬が心ならず痴漢の爲に常
に虐待せられて居るのを認めて、聊か同情に堪へ
ない感がするのである。
人には添つてみよ、馬には乗つてみよ、勿論人
にも賊もあらう馬にも狂ひもあらう。されど其少
數の除外例を楯として以て一般を推して、人を見

れば賊と思へ馬を見れば敵と思へとするものあら
ば、その思ふ所こそ賊であり敵であるのである。
古來最も馬に近いものは武士である。其武士と
馬とは果してドンな仲であつたか。瘡痍へし佐野
源左右工門でも決して馬を放さなかつたではない
か、山内一豊が一生一度の吐息を洩したのは馬を
欲しさの爲ではないか。群れ來る追手を斬り拂ひ
名に負う墨繪の陣羽織を夕陽に輝かして相加けて
眞一文字に湖水をのり渡して阪本城下に着いて、
其處に彼の片身の逸物と斷腸の生別を遂げた彼明
智の爲に、何人か同情を表しないものぞ。福原落
城の砌、敗殘の士卒船を争つて通れんとせる際、
百戰他年の伴侶を捨つる恐びず此處まで率ゐ來つ
て今や船人に充ちて彼を載する能はざるに會ひ、
涙を吞んで彼は永訣を宣告して浪際にのこして已
は衆と共に解纜せんとするに當り、消然として此
方に向つて三たび嘶かれし時の知盛の胸中を察し
て、誰か一掬の涙を惜むものぞ。彼等二人の爲に
熱涙を捧げて慟哭したものは、敵も味方も、魂は
同じ武士仲間であつたではないか。げにや人には

添ふてみよ、馬には乗つてみよ、吾輩は人道の爲にいひ、馬道の爲にいふ。

小兒の食物に就て

長 井 岩 雄

人もし嬰兒の食物は、何が最も良いかと尋ねましたならば、言ふまでもなく、母乳これなり、と答へねばなりません。天地間、有りと有らぬる物の中に置きまして、母乳こそ、極めて適良なる、極めて効驗ある、嬰兒の飲食物であります。他の物は、如何に衛生に適ふとしても、到底母乳に及ぶものではないのであります。抑も婦人妊娠すれば、頓て、その乳房に異常を生じ、月日の重なるに伴れて、漸次、乳房の發達を來し、其月滿ち、嬰兒出生するに至らば、忽ち、その乳汁を分泌して、可憐の嬰兒を養育するに至ります。是實に、自然の恵み深き賜物でありまして、吾々はこの自然より受けたる賜物によりて成育する權利ありといふべきであります。

さて、嬰兒の食物には、如何なる條件を具備してゐるかといふに、第一、滋養分に富んだるもの。第二、消化し易きもの。第三、始終變化のなきもの。第四、新鮮なるもの。第五、絶えず、供給の出来るもの。この五つに外ならぬのであります。而も、この五つの目的を完全に具備して居るものは、何であるかといふに、これは、決して、他に求むることは出来ません。即ち母乳を措いて、外にないのであります。されば、毎日、毎週、毎月、その子に適當なる營養分を分泌して、その子の身體を、過不及なく、成育せしむるといふは、實に、造物主の巧妙なる注意によつて、出来たものといはねばなりません。

さはいへ、母に慈愛憐愍の心なくんば、どうして、この天の賜物を、絶えず、子に供給することが出来ませう、古より父母の恩は、山よりも高く、海よりも深いといふことは、眞に偶然の言葉でありませう。然るに、もし不幸にして、生母病氣に罹りなどして、身體に異狀を生じ、從つて乳に異常を生ずるやうなことがあつた時には、已を得ず

して、乳母を置くべきであります。而もその乳母をも得難いといふ場合があつた時には、どうしたら宜しいかといふに、この時こそ、萬已むを得ずして、人工營業を施すのであります。牛乳の要は、こゝに至つて、始めて生ずるのであります。因に、わが醫學上に於ては、人乳に依て、嬰兒の身體を養ふのを、自然營養と名づけ、牛乳其他の物を以て、嬰兒の營養に資するのを、人工營養と申すのであります。

さて、不幸にして、自然營養が出来ず、已むなく人工營養に、便るべき時には、何が良いかといふに、こは言ふ迄もなく、牛乳を最も良しとするのであります。如何となれば、牛乳は、その成分に於て、比較的人乳に近く、又日常之を得るに於て、最も容易なる所あればなりであります。併し、牛乳を嬰兒に飲まするに於ては、到底人乳の用法の簡易なるに及まびせん。牛乳は、多くの注意を拂つた上で、飲ませねばならないのであります。第一には、その質の良否を鑑別した上でなければなりません。第二には、新鮮なるものでなければ

なりません。第三には、その稀薄方に就ては、精密なる注意を拂はねばなりません。第四には、分量及び用法に就て、深き用心が入ります。第五には、防腐消毒に就て、毫も油斷が出来ないのであります。

世には、牛乳を以て、或は、人乳以上の滋養分ありとし、且つ嬰兒を養育するに於て、簡單なる注意を拂ひさへすれば、宜しと思ふ者ある有様なれどこは、至つて大なる誤見であります。一朝、之が使用法に於て、間然する所あれば、忽ち嬰兒の胃腸を害して、消化不良を來し、營養上に、大なる障害を來すのであります。私共は、身、小兒科専門を標榜するを以て、自ら、この種の人に接しつゝ、あります。されば、牛乳を用るには、深き注意を拂はねといふ時は、言ふべからざる炎害を、社會民生に及ぼすのであります。今、人乳と牛乳と比較するに、同分量に於て、牛乳は、人乳より蛋白質に富みて、糖分が少いのでありませぬ。之を以て、牛乳を、人乳に代用する時は、水を混ぜて、蛋白質を稀薄にし、且つ特に

糖分を混ぜて、その足らざる所を捕足するのであります。稀薄にせねばならぬこと、及び、砂糖を混和するの要は、實に、こゝにあるのであります。世に牛乳を以て、或は人乳の上にとりましますものゝ害は誤解にも程がある次第でありまして、その害や、計り知るべからざるであります。次號には人乳と牛乳とを比較して、聊か大方の注意を促しませう。

(衛生談話)

小學生徒の轉地修養會

九段阪下精華小學校にては今回の冬期休業を利用して轉地修養會を催はしまづ第一回として湯本校主田代主事磯部教師等同校尋常一年より二年迄の男女生徒廿五名を引牽し鈴木保母小原醫師外に看護婦一名附添ひ舊臘廿七日より本月七日まで鎌倉に轉地越年したるが意外の好成績なりき今其設備を聞くに各教員は二週間山水明媚の地に父兄の如く生徒に接近しその性癖嗜好より食事の好憎健康状態等を觀察し生徒も日頃敬慕する諸先生の膝下

にありて寢食を共にし双方の間に感情の融和と愛情の濃密を加へ教育上の裨益尠なからず生徒の父兄其他教育者の參觀に來るものに平均十數名を越えいづれもこの舉を稱揚せざるはなかりき其生徒に及ぼしたる顯著なる良習慣は冷水洗面の效果にして家に在りては湯を用ふる生徒等も奮つて冷水にて洗面するに至りたるは衛生上最も注意すべきものにして其他着衣の競争に就ては平生家庭にありては乳母又は家人の手を煩はさして一人に衣着衣し能はざるものも一週間後には何れも早きは三分遅きも十一分にて洋服を自から着する様になれり食事習慣の矯正は各教員の苦心する處なりしに其心づかひ空しからず良家の子弟にして肉類卵牛乳等の滋養物を嫌へる爲め榮養不良に陥り又食事の好憎極端なるものありしが一週間後よりは進んで與へられたる副食物等を食し内二名は絶對に嫌へる牛乳さへ飲用するに至れりと云ふ



此頃の料理

石井泰次郎

酢の物

敷酢味噌
はぐし鰯
色紙若布

防風
たんざくうど

○鰯は、よく鹽出ししたるを湯煮し、皮及び骨等を去り、箸にて程よくほぐし置く、
○若布は、よくあらひ、ざつと湯煮にて、かたきすじを去り、一寸角位に切る、

○たんざくうどとは、獨姑を、あらひて一寸位づゝの長さの切りに、ぐるりと皮をむきおとし、端よりうすく切り、水にてよくさらし置く、
○防風は、洗ひて、酢にて煮、色よくなりし時、

鉢などへ生酢を入れ置き、其中へと取り入れ冷し、こまかに切り置く、

○酢味噌は、味あまき味噌を摺鉢にてすりうらでしなし、鍋に入れ砂糖、みりん酒、水等を加へて火にかけ、よく煉り、かたく煉れし所へ酢を加へ、よく合せて鍋をふるし、冷すべし、
深皿に、先づ煉りたる酢味噌を入れ、皿を右手に持ち左の手のひらに當て、とんとんと打ちつけ、中の味噌をたいらにならし、さて、たら、うど、わかめ等をしていさいよく盛り、其上へ防風をばらはらと置き出すべし、

鰯の切身四つ、うど中三本、若布一把（十五匁ばかりのもの）、防風一把（六七匁）、味噌五十匁、砂糖二十匁、みりん酒二匁、水三匁、酢四匁、位の割合にて七八人前は出来るなり、

小皿 うきのことろ 田樂、

落の蓋は、洗ひて外側のきたなき皮をむき去り、金串にさし、刷毛又は房楊子などにて、ごまの油をよくぬりつけ、炭火にかけ、あまりこがさぬや

う、かへし返して、やわらかになる迄やくべし、容易にやけぬ時は又胡麻の油をぬるべし、別に、味噌を摺りてうらごしなし、砂糖、みりん、水等を同せて、よく煉り、少しかためになし前の焼きたるふきのとうへ、両面ともぬりつけ、又少し火にあぶり、串をぬきて小皿に盛るべし、

若菜蒸し小鯛
小鯛を、うろこを取り頭を去り、腸も出して、三枚におろし、鹽をふりかけしばらく(三十分以上)置き、若菜(小松菜又は何菜にてもよし)をよく洗ひ、莖を取り葉のみをこまかに切り、鹽少しふりかけてまぶし置く、

さて蒸籠の中へ竹の皮を敷き、其上へ、前に鹽をわて置きたる魚を、ざつと洗ひて並べ入れ、菜のこまかにさざみたるを、魚の上へ一面に覆ひかけて、蓋をして蒸すなり、よき火にて十五分間位にて蒸し上るなり、

菜のつきたるまゝ静にせいろより取り出し、器に盛り、かけ汁をかけ、あたゝかさうちに出すべし、

かけ汁は、かつを煎汁、一合に醬油五勺とを合せ一度煮かへしたるものにてよし、

長壽者の増加

長壽者の増加と云へば新年早々極めて目出度き事なるか我國に於る男女出産の比例は女子百人に對して男子百五人強の割合なれど普通六十歳前後までは男子の方多數なるも夫れ以上にては女子の數著しく増加し九十歳乃至百歳に至れば女子の數は殆んど男子の三倍に及べりと云へり是れ或は男子が生存競争の激しくして精力を消耗する事の大なる爲め長壽を保ち能はざるに依らんか去れど長壽者の數は近年男女を通して一般に増加の傾向を示し明治二十年の統計には八十歳乃至九十歳の高齡者百人中〇五二九十九歳乃至百歳は〇〇二なりしものが同三十年には八十歳乃至九十歳は〇、六一、九十歳乃至百歳は〇、〇四に増加し更に最近の統計によれば八十歳乃至九十歳は〇、六八、九十歳乃至百歳は〇、〇五に増加したりと云ふ喜はしき現象なりし

婦人の剛徳

鹽 野 生

世の婦人は、家庭に於ても、社會に於ても、相當の尊敬を受くべきものである。しかるに、古來の國風なりなど唱へて、婦人を不當なる位置に引き下げ、奴僕に如く扱はしめば、たとひその外見は如何に優美に見ゆるとも、國民の品位そのものは、日に益々落ちて行くのである。婦人を尊敬せざれば、婦人は無責任にするもので、無責任の婦人は、子弟を教育するなどといふ高尚な考へはあるべき筈はない。されば、如何に極端なる男尊女卑を唱ふるものにも、その子弟が主婦を侮るをよしとするものはない。そこで主婦がもしその子弟に侮らるれば、家庭に於て賞罰を主るものなく子弟はついに傲慢に流れ易いのである。この理を推して考ふれば、婦人を尊敬するのは、獨り婦人のためのみでない、又家と社會との風紀を維持するためであることを知らなければならぬ。良人に對しては、自己の意志を全く曲げつくし、一言半

句も、唯其の命令のまゝになすべく教へられし家庭と社會に於ては、男子は婦人に對して、少しも憚るところなきが故に、その徳操なるものは自然に破れる故に語をかへて言へば、國民の風儀は、一に家庭に於ける婦人の位置と勢力によりて定まるのである。昔ニゼルマン一人種の女性はその森林の漂遊者たりし時より、大なる勢力を有し、戰爭の間には、良人に伴ふて奮闘をたすけ、陣中にありて、甲斐なく立ち働き、若し良人の卑怯なる振舞あれば、口を極めてこれを罵り勵まし、かば、其人種の猛勇なることは、當時比類がなかつたのである。又「スバルタ」と云へる希臘の市民は實に勇武を以て天下になれるものであつたが、其市民の母たる人の其子を戰場に送るとき、汝の劔短かくば、汝の足を進めて敵に達せしめよ、戰若し破るれば、潔く戰死し、柩に乗りて歸れよと云た。國風の淵源、婦人の手にありとは、この實例によりて明である。されば、婦人にして男子を勵ますべき勢力ある國は、活氣もあり、しかも前途有望の國民である。從來我が國の婦人は、優美

なるがよしとて、芋虫の動くにも驚き、風の葉を吹くにも心をなやますを以て、やさしげなるものゝやうに言ひはやし、婦人の剛徳を養ふことに、勉めざるは、戦捷國として尙更一大欠點である。なんと寒心に堪へぬことではありませんか。

春の十七字詩

鹽野奇零

正月や皆が足袋はく山の家
正月は皆驚の心かな
正月は松に極まる朝日かな
正月や火桶抱へて梅の花
正月や心の底の改まる
荒磯や雨の二月を啼く千鳥
湖の連寒き二月かな
氣の軽くなるや二月の草の色
池はまだ半分氷る二月かな
二月やつもらぬ雪の二日降る
掃く跡へ水の戻りぬ春の雪

春なれや雪は降りても暖かき
朝日さす樹々の光りや春の雪
藪入や上野淺草日は暮るゝ
藪入や先づ兩親の墓参り
藪入や里にかかしき京言葉
藪入の羽織短かき小僧かな

短歌

菅原櫻心

神々が快樂の園に老いまさる松の
大木は神さびて榮ゆ
ともすれば若き日のこと浮び來てうれしなつかし
森蔭の家
秘めますかみ胸よ永久に秘めまさは語り明さむ日
ぞ遂になき
○ 中西竹溪
床の間の堆朱の卓に香焚きて正氣の歌を先づ誦し
て見る
ちゝとなく小鳥に夢を破られていそぎ閑伽汲む尼
君わかき

○ 秀 子
白梅しらびめや二十日はつかの月のありありを花ことごとく匂におひ吐はきぬれ

竹 鳥 芙蓉

○
初明はつあけや大富士おほふじ浮うぶ海原うみはらの水みづひらさに鐘かねひいさ來きる
春立はるたつと庭療かたりたくなり廣前ひろまへのみどり重ねる松蔭しょうえに
して

八 く も

○
年とししいに又またくれんとす悲かなみをひとつゝにうつ除じよ
夜の鐘かね
夜は更あけけぬ淡あき島根しまねに火は見えて千鳥せんじよの聲こゑのあは
れ聞きこゆる

鈴木 永五郎

○
よき人は裕あゆに情なさけぬひこめて物思ものおもふ夜をかりがねの
聲こゑ

わびしさかそゝろ夕扉ゆふどに立ちよれば穂ほすゝきゆら
き鐘かね低ひう鳴なりる

林 静 子

○
冷ひやえすさる胸むねの眞底まぞこに植うえもせむ聖きよさに匂におふ水仙すいせん

○ 加藤 たまも
の花
白梅しらびめや物おもはしき美よき人がかざね袂たもとをすべりて
落ちぬ

○
わがながす涙千ちだまの光ひかりしてあさ日に立ちぬ雪ゆき
解ひする竹
白雪しらゆきにもゆるが如ごとき唇くちびるの笑わらまひうつくし寒梅かんばいの花はな

起 雲

○
下京しもきやうや梅うめに被衣かみぎすあで人の
袂たもとより曳ひく彩霞あやがすみかな
明鐘あけかねやわれよみかへる心地こころして
仰あやげばたかし不二ふじの神山かみ

○ 短歌 伊勢。白子局區内眞宮宛
歡迎





柿と栗との話 (お伽庶物談)

なにがし

柿の實を示して

「皆さんこれは何ですか？」

「此色は何色ですか？」

「之を食べるときは何うして食べますか？」

「中には何んなものがありますか？」

「種子は何んなに並んで居るか見たことありますか？」

か？」

「切つて見せませうか」と二つに横断して見せる。

次に栗の實を示して

「これは何んですか？」

「此とげのある皮をむくと何が出ますか？」(出して見せる)

て見せる)

「此皮をまたむくと何がありますか？」(出して見せる)

「此し皮の中には何がありますか？」(同)
 「何うして食べますか？」
 など問答しながら次の話に進む。

或日のこと山の中で柿の實と栗の實とが出遇ひました。

栗はいが／＼の外套を着て居るので誰れもうつかり傍へよる人がありませんから大威張で

栗「柿さん、今日は大分霜が降りて来て寒いね。

ソレソウト柿さん、お前は何時も眞赤な顔をして居るではないか、何うかしたのかね」と云ふと

柿「ヤア、栗さん、相變らず元氣がいゝね、僕も

お蔭様でね、至極達者だがね、困ることは僕

は君の様に外套がないので烏や鳶がいたづらをして仕様がな

僕に皮一枚だから寒くて仕方がない。」とこぼして居ました。スルト栗は

栗「柿さんそんなにこぼしたまふな。僕には僕だけにつまらないことがある。君は皮一枚取れば直ぐ食べられるけれど僕などは外套を取られて

着物を取られて、おまけに釜うでにされるのだから堪まらないぢやないか、いのちも何もあつたものではないよ。それだから僕などは一つ切らない大事な芽を煮られてしまつて、もう生へることが出来ない。君などはいくら食べられても種子が澤山残つてそして何時でも生へることが出来るぢやないか」

本號にか伽話を充分に入れることが出来ませんで讀者諸君に何とも申譯が御座いません。次號に於て大に埋め合せを致しますれば夫れにて御赦しあらんことを願ひます。

金額

五〇	四〇、八——四〇、一〇〇
六〇	四〇、七——四〇、一二
六〇	四〇、七——四〇、一二
一〇〇	四〇、二——四〇、一二
一〇〇	四〇、四——四一、一
一〇〇	四〇、六——四一、三
一〇〇	四〇、六——四一、三
一二〇	四〇、一二——四一、一二
一一〇	四〇、一——四〇、一二
八〇	四〇、九——四一、四
六〇	四〇、一〇——四一、三
六〇	四〇、一〇——四一、三
六〇	四〇、一〇——四一、三
八〇	四〇、八——四一、三
一二〇	四〇、一——四〇、一二
七〇	四〇、四——四〇、一〇〇
四〇	四〇、九——四〇、一二
一〇〇	四〇、七——四一、四
一〇〇	四〇、七——四一、四
一二〇	四〇、一——四〇、一二
一二〇	四〇、一——四〇、一〇〇
一二〇	四一、一——四一、一二

澤尾まきひ
村橋あげ
高橋乃
小田梅乃
小野はな
阿部長
伴茂樹
半田幼稚園
平野蝶
長谷川ちゅうろ
後蔵りん
稲葉うね
小杉郷
小野義倫
須藤つね
脇屋なほ
大山西代
服部たき
柳井つる
野口ゆか
石橋富子
渡邊榮子

[illegible]

山中下技 幣原 賀 一色とエ 岡田ちエ 大田恒子 内藤すゝ 井上香 奥宮 貞 久米ふみ 深江とき 中安親子 永池待枝 前田捨松 永田けい 中桐確太郎 武田まつ 鈴木 竹 山田ます 月野みち 長興のぶ 田坂りつ 春田たか 矢野房代 渡邊こ

西本 越 木 柄 御園 小 保 鳥 山 籍 土 藤 吉 土 宮 千 多 西 西 山 高 羽 大 松 吉 奥
越 本 越 越 園 關 科 居 田 石 取 村 武 井 崎 葉 田 村 島 川 中 岡 田 島 本 岡 野
さ わ そ て 修 し け 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
わ ー

[illegible]

岩川 久
 大澤 まさ
 一色 とよ
 三宅 はふ
 河合 ちよ
 關谷 いま
 成志小學校
 小林 傳
 大和田 りゆう
 津原 ちか
 石川 かね
 岩崎 こま
 勝田 すみ
 岡山 秀吉
 久米 たつ
 酒井 冬
 十文字 豊
 小曾 もと
 伊藤 のぶ
 川島 みち
 加藤 たけ
 岩本 藤吉
 石川 えね
 小谷野 かね
 今立 繁

~~~~~

四十七



フレーベル會發行

# 幼稚園遊戲

定價金四拾錢 郵稅四錢  
會員特價參拾錢

幼稚園の爲めに編纂され幼稚園の爲めに出版されたものは本書が始めてあります。世の幼稚園に關係せらるゝ方々は是非一本を座右に備へられんことを望みます。

尙本書には女子高等師範學校内にて作られた幼兒用唱歌の歌曲並に同校附屬幼稚園に於て現今採用せらるゝ保育要項とを附録として採録致しました。

フレーベル會發行

# 幼兒談話材料

定價金四十錢 郵稅四錢  
會員特價參拾錢

世に行はれて居る多くのお伽話は幼兒教育に不適當なものであります。本書の内容は特に幼兒の爲めに作られたもので幼稚園時代の幼兒に最も適當なものを集めてあります。家庭間の贈物などには最も妙なるのみならず、苟も幼兒教育に關係して居らるゝ方は是を標準として作話せられんことを希望致します。





行發會ルベール内校學範師等高子女

# もど子と人婦

## 本領

家庭の經營は六ヶ敷いもの、理想の家庭はなか／＼實現し難いものでありますが、併し現在の家庭は國家の爲めに益改良し行かねばならず、如何にせば最も完全な家庭を得可きかと云ふことは社會の進歩と共に益研究し行かねばなりません。そこで家庭研究と云ふことが頗る趣味ある難問題となる次第であります。

本誌は此必要に應じて着實な思想と穩健な主張とを以て眞正な家庭生活の意義を明にし世の家庭教育、女子教育に向つて、適切な科學的解決を試み様と努めて居るのであります。殊に家庭教育幼児教育に就ては他に斯界の指導となる可きものがありませんから本誌は進んで本邦に於ける幼児教育界の木鐸たらんことを私に期して居る次第であります。

育児に眞面目なる世の父兄並に幼児教育に關係せらるゝ購讀諸君は奮つて御購讀あらんことを願ひます。手續は表紙の第二頁に御座います御覽下さいませ。

\* \* \* \* \*

